

## DPUB

# ウランバートル市における障害者の 社会参加促進プロジェクト



ニュースレター第3号  
2017年11月

### バガノール区で行政管理職に対する障害研修を実施

2017.11.7

バガノール区に行ってきました。バガノール区は、障害者も高齢者も子供も、すべての人が住みやすい街づくりを目指しています。その為



に、まず管理職員が障害者の抱えている課題を正しく認識し、社会開発を進める必要がある為、今回、管理職員80名を対象に障害研修を実施しました。研修内容は、管理職員の心得、障害平等研修 (DET)、障害者権利法、障害者権利条約、ユニバーサルデザインなどで、朝9時から午後5時までびっしり研修を行いました。今回は、参加者の反応

がとても良く、DETで充実した議論ができました。そして社会環境に障害問題があることをしっかりと理解頂き、その上で、障害者権利法と権利条約について講義しました。長い研修だったにもかかわらず、Ts. Sandag-Ochirバガノール区長は最後まで参加し、おかげさまでとても充実した研修になりました。我々も長い間この分野で仕事をしていますが、区長自ら最後まで研修に参加することはめったにありません。したがって、他の管理職の皆さんも真剣に講義を聞いてくれました。今回最も伝えたかったことは、「障害者が住みやすい社会は、すべての人にとって住みやすい社会」ということです。障害者支援ではなく、障害者が住みやすい社会環境を整えれば、結局は、高齢者、児童、旅行者（外国人）、妊婦、ベビーカーを持つ母親、自転車等など、すべての人が住みやすくなるのです。今回研修を準備してくれた、バガノール区役所の皆様、参加してくれた管理職員の皆様、DETを実施してくれたファシリテーターの皆様、すべての人に感謝したいと思います。これからバガノールが「みんなが住みやすい社会」になることを期待しています。



皆さん、こんにちは。DPUBの千葉です。いよいよ2度目の冬がやってきました。去年はモンゴルの寒さに怯えてましたが、今年は二度目なので全然大丈夫です。と油断したら風邪を引きました。みなさんも気をつけましょう。

さて今日は、私が障害分野に関わった理由をお伝えしたいと思います。私は元々エンジニアでした。大学も数学科を卒業しています。でもエンジニアの仕事が自分には合わず、4年で辞めてしまいました。そこでどうしようか悩んだ結果、国連で働きたいと思いました。国連で働けたら、なんだかカッコイイと思いませんか？でも私の周りに国連で働いた人がいなかったもので、どうすれば働けるか分かりませんでした。でもさすがに英語と修士は必要だろうと思い、留学することにしました。ただ、英語があまりできなかったので、英語学校から入りました。すると授業料が非常に高く、すごく驚きました。だから一生懸命勉強しました。この時、お金がないと人は勉強するんだなと思いました。そして留学を決めてから1年後、ようやくオーストラリアの大学に進学することができました。(つづく・・・)



JICA DPUBのFACEBOOKページに「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページのいいねが**919件**に達成し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

## 夢のセットトップBOX

2017.11.6

TVに字幕や手話通訳を簡単に付けることができたらいいと思いませんか？日本では、平均60%のTV番組に字幕が付いているそうです。しかしモンゴルでは、ほとんどの番組に字幕がなく、手話通訳がモンゴル国営放送（MNB）の1時間のニュース番組に付いているだけです。そこで聴覚障害者団体は、TV番組に字幕や手話を付けるように要望を出していますが、これまで実現されていませんでした。

そんな時、国際電気通信連合（ITU）でも働き、情報アクセシビリティの専門家である慶應義塾大学の川森教授と株式会社アステムの小林部長、中谷次長がモンゴルに来ることになりました。そこで、我がプロジェクトでも情報アクセシビリティに力を入れているため、今回、少しお手伝いをさせて頂きました。

今回、川森教授は、アステムさんが開発した、ITUが定めたIPTVのアクセシビリティ国際標準H.702を満たしたセットトップBOXを紹介してくれました。このBOXをモンゴルのTVに付けると、写真のように手話と字幕を挿入し、さらに手話も字幕も大きさや位置を自由に変えることができます。（もちろん、消すことも可能）これをモンゴルのTV局、通信会社、通信規格委員会、労働社会保障省にお見せしたところ、非常に興味を持って頂きました。特に手話通訳者協会と聴覚障害者の人たちは、「これこそ、我々が待ち望んでいた機械！！」とのこと。



## ランチお届け隊☆

### “飛ぶチーム”の発足

2017.11.14



モンゴルダウン症協会に所属する青年期のユースたちが、「フライング・チーム」と呼ばれるチームを発足し、弁当配達事業を始めることになりました。ウランバートル市内の外資系企業を中心に、お弁当を配達します。現在、週2回、協会に集まって、準備を進めています。先週金曜、プロジェクトメンバーが協会を訪問し、DAISY絵本を紹介しに行きました。フライング・チームのメンバーは、始めて見る電子図書に興味津々。様々な感想を聞かせてくれました。お弁当も早く食べてみたいですね！



今回の手話と字幕はデモですが、技術的には今すぐにでもモンゴルに導入可能とのこと。あとは、人材育成と費用負担をどうするか、システムを上手く作れば、モンゴルでも字幕と手話通訳付きTV放送が可能になります。プロジェクトでも協力できることを考え、早く実現できればと考えています。字幕と手話が付いた放送で、障害者を含む誰もが東京オリンピック・パラリンピックを楽しめたら良いですね。

## 障害者副委員会の始動

2017.11.15

2017年1月からモンゴルでは障害者国家委員会が実施されています。また同時に、各省庁の下に障害者副委員会も設置されました。この副委員会が今月に入り2つ実施されたました。ひとつは、労働社会保障省、もう一つは、ウランバートル市役所の副委員会でした。副委員会には、障害者団体の代表と行政官が参加し、今後の障害者施策や実施状況、また障害者団体の要望などが検討されました。ウランバートル市役所の副委員会では、障害者権利条約などについて、チーフアドバイザーの千葉が講義しました。モンゴルで障害者権利法を実施するには、障害者国会委員会、障害者副委員会が障害者の参加をもって機能することが非常に重要です。今後も副委員会が実施され、権利法が実現していくことを期待しています。



YouTube 版電子図書「てんとてん」ができました。動画はこちらから♪  
⇒<https://youtu.be/oDJPNKbf9QU>

**Office:** Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

**Facebook:** <https://www.facebook.com/jicadpub>

**Website:** <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

**E-mail:** [dpub.jica@gmail.com](mailto:dpub.jica@gmail.com)